

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 5 月 9 日現在

機関番号：34310

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K16712

研究課題名（和文）非欧米諸国の女性キリスト者による環境倫理への貢献 ラテンアメリカを中心に

研究課題名（英文）Christian Women in the non-Western Contexts and Eco-justice: Focusing on the Cases in Latin America and Asia

研究代表者

藤原 佐和子 (Fujiwara, Sawako)

同志社大学・研究開発推進機構・嘱託研究員

研究者番号：20735295

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、1990年代以降の非西洋の文脈において新しく登場したエコフェミニスト神学運動が、気候的危機の諸課題に対してどのように貢献してきたかを考察するために、「解放の神学」の内部から生まれたラテンアメリカのエコフェミニスト神学運動史、ブラジルのカトリック神学者イヴォネ・ゲバラが、西洋、非西洋の双方の文脈における諸運動に与えた影響、1990年代から現在までのアジアの女性キリスト者たちの間における環境意識の高まりという3つの側面について論じた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究が、ローマ・カトリック教会の教皇フランシスコが環境的回心と呼びかけた回勅「ラウダート・シ」を契機として、北米やヨーロッパを中心とするキリスト教による環境正義の議論において長く見落とされてきたラテンアメリカ、アジアの女性キリスト者たちによる、地球サミット（1992年）から2019年までの思想的・実践的蓄積を整理、分析、観察したことは、現在の気候的危機に対応しようとする「パリ協定」（2015年）以後における時宜を得た研究成果の獲得につながった。

研究成果の概要（英文）：This research project examined three aspects of the newly emerging ecofeminist theological movements in non-Western contexts since the 1990s to consider the major contributions to the present climate justice issues. First is the development of ecofeminist theological movement in Latin America that matured within “liberation theology”; second is the influence of Ivone Gebara, a Catholic Brazilian theologian, on the movements in both Western and non-Western contexts; and third is the development of ecological awareness among Christian women in Asia since the 1990s to the present.

研究分野：キリスト教思想史

キーワード：思想史 キリスト教 ジェンダー 環境倫理 エキュメニズム

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

2015年、ローマ・カトリック教会の教皇フランシスコが気候的危機の現実を分析し、全世界の教会に環境的回心(ecological conversion)を呼びかけた「ラウダート・シ」(Laudato Si')は、環境倫理(または環境正義、気候的正義)に取り組む人々にとって待望の回勅であり、第21回気候変動枠組条約第締約国会議(COP21)における「パリ協定」採択を後押ししたものと高く評価されている。しかし、日本のキリスト教による環境倫理への貢献は、今日盛んであるとは言えず、現在のキリスト教の軸が「欧米」から「非欧米」、「西洋」から「非西洋」、「グローバルノース」から「グローバルサウス」へと移行している現状に対する認識の低さから、1970年代以降のキリスト教における環境倫理の議論(エコ神学など)がヨーロッパ中心的、男性中心である点が問題視されることも少ない。また、エコフェミニスト神学(ecofeminist theology)に関しても、北米およびヨーロッパの白人女性キリスト者たちによる初期の思想的蓄積への言及に留まっているため、今日、重要な行為主体である「非欧米の女性キリスト者たち」が、環境倫理にどのように関わっているのかについては長く論究されてこなかった。

### 2. 研究の目的

本研究は、「ラウダート・シ」の発布を契機として、これまでキリスト教の環境倫理への貢献の議論において見過ごされてきた非欧米の女性キリスト者たち(アジア、ラテンアメリカ)が、1992年のリオ・デ・ジャネイロにおける地球サミット以降にどのような思想的・実践的蓄積を行ってきたかについての新たな知見の獲得を目的とする。

### 3. 研究の方法

(1)非欧米のエコフェミニスト神学運動における先駆的事例としてのラテンアメリカに注目し、当該地域において環境倫理に貢献しようとする女性キリスト者たちの拠点としてサンティアゴ・デ・チレに設立されたコンスピランド・コレクティブ(The Con-spirando Collective)の発起人の一人であるメアリー・ジュディス・レス、同グループに多大な影響を与えたとされるイヴォネ・ゲバラらの先行研究を資料として、ラテンアメリカにおけるフェミニスト神学運動史に関する基礎的研究を行う(参考文献 )。

(2)ラテンアメリカを代表するエコフェミニスト神学者として国際的に知られている、カトリック修道女のイヴォネ・ゲバラ(ブラジル)が、どのようにしてキリスト教信仰とエコフェミニズムを結びあわせてきたかを探求するために、彼女のライフヒストリー、1992年の主著 *Longing for Running Water* が執筆された経緯、その主要な論点についての文献研究を行う(参考文献 )。

(3)アジアの女性キリスト者たちによる神学運動の拠点となっている AWRC (Asian Women's Resource Centre for Culture and Theology) が発行する専門誌 *In God's Image* のバックナンバーを収集し、アジアの女性キリスト者たちがいつからどのようにしてエコフェミニスト神学的視座を表現し、実践してきたか(地域的事例)についての文献研究を行う。

(4)「ラウダート・シ」が発布された2015年、アジアにおけるプロテスタント諸教会のネットワークであるアジア・キリスト教協議会(Christian Conference of Asia)の総会に際し、フィリピン出身のフェミニスト神学者ホープ・アントニが「気候変動と環境正義(eco-justice)」を主題化した点に注目し、北米における環境倫理学、環境運動論、エキュメニカル運動における「環境正義」の諸概念を整理する(参考文献 )。(4) アジア・キリスト教協議会が60年以上に及ぶ歴史において初めて開催する2019年のアジア・エキュメニカル女性総会(Asian Ecumenical Women's Assembly、於台湾)で、環境倫理(または環境正義、気候的正義)への取り組みがどのように議論され、共有されているかについての参与観察を行う。

(5)2017年に世界各地の女性キリスト者たちが気候的正義とキリスト教の教義について論じた *Planetary Solidarity* が米国で出版されたことを受けて、本研究の背景となっている教皇フランシスコの回勅「ラウダート・シ」を、ラテンアメリカおよびアジアのカトリックのエコフェミニスト神学者たちがどのように読み、評価しているかについて、エコフェミニズムの最新動向と照らし合わせながら論及し、今後の課題を検討する(参考文献 )。

なお、本研究は当初、コンスピランド・コレクティブが毎年2月に開催するサマースクール(チリ)における参与観察を計画していたが、同プログラムの開催中断、研究代表者の所属機関における業務の増加などの諸事情から、ラテンアメリカを代表するゲバラのエコフェミニスト神学を方法論的基礎としながら、環境倫理に関連するアジアの女性キリスト者たちの思想的・実践的動向を中心に研究することとした。この判断は、研究期間中(2018年以降)研究代表者のアジア・キリスト教協議会常議員会への出席によって最新の資料・情報の利用が可能となり、同協議会で2019年に「環境保護方針」が採択され、アジアの女性キリスト者たちの間で「被造世界の修復」が主題化されるなど、アジアのキリスト教において「環境正義」「女性」がフォーカスされる状況に即すこととなり、結果として、時宜を得た研究の遂行につながった。

#### 4. 研究成果

(1)ラテンアメリカにおけるエコフェミニスト神学運動は、軍事独裁によって著しく弾圧された1970年代に「解放の神学」運動内部の動きとして始まった。独裁政権の多くが制限付きの民主主義に取って代わられた1980年代、解放の神学では女性の抑圧についての対話が始まり、市民運動に従事する女性キリスト者たちがリタジー、アート、詩などの創作に取り組むようになった。1990年代、フェミニスト神学は神学全般の再構築を提唱し、有形・実体としての身体をdoing theologyにとつての新しいロカスとする「身体」の捉え直し、それと密接に関係するエコフェミニスト神学の登場、「解放の神学」に対する批判をその特徴とした。このように、ラテンアメリカにおけるエコフェミニスト神学は、北米およびヨーロッパにおけるフェミニスト神学の影響を受けながらも、あくまでも解放の神学の内部で生まれ、その家父長主義的特徴を克服しようとする新たな展開の中で生じた神学運動であると言える。

(2)イヴォネ・ゲバラについての主な研究成果は、以下の4点である。ラテンアメリカでは、ゲバラからの思想的影響を受けたコンスピランド・コレクティブが、身体的神学を方法論として、諸悪の根源として軽蔑されてきた女性たちの「身体」を聖なるテキストとして捉え直そうとしてきた。ゲバラのライスヒストリーを辿ると、彼女が段階的にフェミニスト、エコフェミニストとしての批判的視点を身につけてきた点、同書の背景に、1993年に女性の自己決定権についての発言をきっかけとしたバチカン教理省による沈黙の強制があった点を確認できた。ゲバラの主著では、例えば、カトリック教会のドグマによる「過度なイエス中心性」が大胆に批判され、ナザレのイエス(史的イエス)を「わたしたちの肉の肉」と言い表す「ポストドグマティック」な神学的立場が表現されている。ゲバラは、神学が問題とすべきは、イエスをめぐる正統的で権威主義的なドグマではなく、あくまでも貧しい女性たちの「具体的現実」であり、日常生活のあり様であると主張している。

(3)*In God's Image*のバックナンバーを調査対象とした研究では、アジアの女性キリスト者たちの間で環境倫理にかかわる論議が登場し始める1990年代、際限のない開発事業が批判的とされた点、エコフェミニスト神学的な視座が詩や散文として表現された点、また、それが環境意識の高いキリスト教教育の実践に反映された点を確認できた。「エコフェミニズム」という言葉を明確に用いた初めての特集号(2000年)では、アジアの諸文化に見出されるエコフェミニスト的要素の再評価、自然破壊に対する女性たちの抵抗運動の報告、リタジーの創作が行われた。また、アジアのキリスト教が「自然災害」の問題にフォーカスするきっかけとなったスマトラ沖地震(2004年)以降の状況において、「神の庭をケアする」が主題となった2006年には、被災地の状況や女性たちの心情がアルピジェラ(タペストリー)の制作を通して表現され、自然災害を聖書の物語(ノアの方舟など)と結びつけ、神の怒りや罰と解釈するような、一部の教会による「安易な神学化」が批判され、また、犠牲者の死を悼むリタジーが創作された。特に重要なのは、スマトラ沖地震による死亡者の約75パーセントが女性であったように、自然災害による女性の死亡者数が、男性を大きく上回るという事実である。そして、母親の死亡は、幼児の死亡、早すぎる結婚、女子教育の無視、保護者のいない少女への性的攻撃、性産業に従事させるための人身取引といった数々の悪影響へと連鎖していく。アジアの女性キリスト者たちが、被災の経験を通して人間共同体の破れ(brokenness)を様々識別し、その修復を課題としていることが分かった。

(4)- 1970年代以降の北米において学問的分野として確立された環境倫理学の背景には、リン・ホワイト・Jr.によるユダヤ-キリスト教の創造論への批判がある。また、1980年代における環境的人種差別(レイシズム)の問題化、1990年代以降の「環境正義(environmental justice)運動では、米国キリスト合同教会(UCC)人種的正義委員会の牧師たちの積極的なかわりがあり、1970年代以降、エキュメニカル運動にかかわるキリスト教倫理学者たちの間で主題化された「環境正義」(eco-justice)が、従来のエキュメニカル運動が追求してきた「社会正義」(social justice)を拡充するものであることが分かった。また、グローバルレベルのエキュメニカル運動を牽引する世界教会協議会(World Council of Churches)が、環境正義を初めて積極的に導入したのが、第5回総会(ナイロビ)が開かれた1965年であった点や、気候変動枠組条約の採択される地球サミット(1992年)に先駆けて、「気候変動プログラム」と呼ばれる専門チームを1988年に設置している点などについて確認した。

(4)- アジア・キリスト教協議会常議員会は、2019年7月、初めてとなる「環境保護方針」を採択され、すべてのプログラムに「被造世界(creation)への配慮」(=環境倫理への貢献)を取り入れることを決めた。同年11月に開催されたアジア・エキュメニカル女性総会(新竹)における参与観察では、環境正義を強く意識した「被造世界の修復」(Restore the Creation)が主題の一つに掲げられ、アジア各地の環境問題や地域共同体(特に、先住少数民族などのマイノリティ集団に属する女性たち)の被害状況、対応策などが、講演、聖書研究、ワークショップを通じ、250名を超える参加者たちの間で共有された。また、会場では、プラスチック製品の不使

用をはじめとする具体的実践が徹底される様子を観察することができた。興味深いのは、飛行機での高速移動（フライト・シェイム）や、電子機器、化粧品、合成繊維の使用を通して海へと廃棄されるマイクロプラスチック（超微粒子のマイクロビーズ）など、同年の国連気候行動サミットで注目されたキーワードが「祈り」の言葉の中に多く登場した点である。例えば「修復のための祈り」では、参加者たちが、気候変動の悪影響を被る人々のために働く勇気と粘り強さを神に願い出た。閉会礼拝では、参加者たちは「壊され、傷付いているすべての修復を果たし、神の家において調和して共に生きていくこと」を求めて祈った。アジアのキリスト教史から見て、女性キリスト者たちの信仰の表現と環境倫理（または環境正義、気候的正義）のつながりがこれほどの規模で可視化されたのは、同総会が初めてであったと言える。

(5)ゲバラは、教皇フランシスコによる気候的危機への積極的対応の価値を認めながらも、「ラウダート・シ」が女性たちの現実に注意を払わず、女性の存在を非現実的な水準に持ち上げて称賛している点を見逃さず、これをノスタルジックな家父長主義的神学に対する逆行であると厳しく批判している。カトリックのフェミニスト神学者たちによって結成された「アジアの女性たちのエクレスシア」(EWA)のメンバーであるシャロン・A・ボング(マレーシア)は、同回勅がジェンダー中立的(gender-neutral)、ジェンダーブラインド(gender-blind)な印象を与えている点への落胆を隠さず、グローバルレベルの取り組みにおけるジェンダー包括的(gender-inclusive)なアプローチへのシフトの重要性を強調した。また、ボングは同回勅が、2015年の三つの重要文書、すなわち「パリ協定」「持続可能な開発目標(国連SDGs)」「アディス・アベバ行動目標(AAAA)」で示されたような気候的正義とジェンダー公正(gender justice)の不可分性を考慮していない点を問題視した。

(1)~(3)では、非欧米の女性キリスト者たちの「神の被造世界へのケア」にかかわる宗教的感受性や動機付けが、もっぱら西洋のエコフェミニスト神学研究の輸入や紹介によって養われてきたのではないことが明らかになった。(4)~(5)は、「ラウダート・シ」発布の翌年に始まる本研究が、最終年度を迎えるまでの4年間に新たな関連文献が出版され、アジアの女性キリスト者たちに特化した大規模なイベントにおいて「被造世界の修復」が主題化されるなど、国外の動向に即して遂行した。また、国内では特に2019年において、「災害の問題を宣教学的に考える」を総主題とする日本宣教会の全国研究会、関西学院大学キリスト教と文化研究センターの「エコロジカル聖書解釈」研究プロジェクトから研究発表の機会を、月刊誌『福音と世界』の「環境といのち」特集号において執筆の機会を与えられることによって、広く研究成果を報告し、幅広い学問領域の専門家から貴重な助言を受けることができた。

気候的危機の問題についてのグローバルレベルの取り組みは、グラスルーツの女性たちの働きかけによって、地球サミットから20年以上をかけて、ジェンダーに基づく気候的不正義は「ある」という認識を前提とする、ジェンダー包括的アプローチへシフトしてきた。その意味で、非欧米の女性キリスト者たちが、エキュメニカルなネットワークを通して連帯しながら、男性中心的、ヨーロッパ中心的、さらには異性愛主義的なキリスト教や環境倫理のあり方を批判してきたことは今日的に妥当であり、人々の被害状況がセクシュアリティ、年齢、階級、健康状態、エスニシティ、国籍、宗教などの様々な差異の交差によってさらに複雑化することも問題視されてきた。今後の研究では、性差別(セクシズム)だけでなく、異性愛主義(ヘテロセクシズム)の問題をより注視し、気候的正義の取り組みと不可分な関係にあるジェンダー公正(gender justice)が、「教会の一致」をテーマとするエキュメニカル運動においてどのように推進され、どのような理由で妨害されてきたのか、様々なセクシュアリティを生きる人々が尊重される包括的共同体(inclusive community)の目標化に至る思想的変遷とその波及効果について論究していきたい。

#### 参考文献

- Mary Judith Ress, *Ecofeminism in Latin America*, Orbis Books, 2006.
- Gebara, Ivone. *Longing for Running Water: Ecofeminism and Liberation*, Fortress Press, 1999.
- Hope S. Antone, "Climate Change and Eco-justice: Reading the Signs of the Times." In *Living Together in the Household of God: Asian Reflections*, Christian Conference of Asia ed., pp. 73-84, Christian Conference of Asia, 2015.
- Grace Ji-Sun Kim and Hilda P. Koster eds., *Planetary Solidarity: Global Women's Voices on Christian Doctrine and Climate Justice*, Fortress Press, 2017.
- Ryan Holifield, Jayajit Chakraborty and Gordon Walker eds., *The Routledge Handbook of Environmental Justice*, Routledge, 2018.

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 藤原佐和子	4. 巻 59
2. 論文標題 世界教会協議会（WCC）における女性の参加	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本の神学	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 藤原佐和子	4. 巻 14
2. 論文標題 アジアの女性キリスト者たちと『環境正義』 - エキュメニカル宣教学の視点から -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 宣教学ジャーナル	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 藤原佐和子	4. 巻 2020-05
2. 論文標題 エコフェミニスト神学の現在地 「ラウダート・シ」とカトリック女性たち	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 福音と世界	6. 最初と最後の頁 30-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 藤原佐和子	4. 巻 80(1)
2. 論文標題 ラテンアメリカのエコフェミニスト神学とイヴォネ・ゲバラ Longing for Running Water（1991年）を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 基督教研究	6. 最初と最後の頁 39-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 藤原佐和子	4. 巻 15
2. 論文標題 アジアの文化的コンテキストにおけるエコフェミニスト神学 In God ' s Image ( 1991年 ~ 2006年 ) の事例から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 人文学と神学	6. 最初と最後の頁 13-34
掲載論文のDOI ( デジタルオブジェクト識別子 ) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている ( また、その予定である )	国際共著 -

1. 著者名 藤原佐和子	4. 巻 11
2. 論文標題 アジア・キリスト教協議会 ( CCA ) の現状と課題 創立60周年と「アジア宣教会議 ( 2017 ) 」に向けて	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 宣教学ジャーナル	6. 最初と最後の頁 109 - 130
掲載論文のDOI ( デジタルオブジェクト識別子 ) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤原佐和子	4. 巻 90:1
2. 論文標題 ラテンアメリカのエコフェミニスト神学とイヴォネ・ゲバラ Longing for Running Water ( 1991年 ) を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 基督教研究	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI ( デジタルオブジェクト識別子 ) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤原佐和子	4. 巻 4月号
2. 論文標題 ジャカルタ総会以降のアジア・キリスト教協議会 私たちの課題	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 福音と世界	6. 最初と最後の頁 64-65
掲載論文のDOI ( デジタルオブジェクト識別子 ) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤原佐和子	4. 巻 12月号
2. 論文標題 アジアの教会と連帯しよう 第三回アジア宣教会議（2017年）の開催に向けて	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 福音と世界	6. 最初と最後の頁 43-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤原佐和子	4. 巻 11
2. 論文標題 アジア・キリスト教協議会（CCA）の現状と課題 創立60周年と「アジア宣教会議（2017）」の開催に向けて	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 宣教学ジャーナル	6. 最初と最後の頁 109-130
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計12件（うち招待講演 6件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 藤原佐和子
2. 発表標題 被造世界の修復を考える - アジア・エキュメニカル女性総会に参加して -
3. 学会等名 関西学院大学キリスト教と文化研究センター（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤原佐和子
2. 発表標題 世界教会協議会（WCC）における女性の参加とエンパワーメント
3. 学会等名 日本基督教学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤原佐和子
2. 発表標題 アジアの女性キリスト者たちと環境正義 (eco-justice) エキュメニカル運動の視点から
3. 学会等名 日本宣教学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sawako Fujiwara
2. 発表標題 Changing Family Value and Culture in Japan: Problems Face by the Youth Today
3. 学会等名 Asian Ecumenical Youth Assembly, Christian Conference of Asia (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤原佐和子
2. 発表標題 『アジアの女性たちの神学』におけるエコフェミニスト神学の萌芽 In God's Image誌の事例から
3. 学会等名 日本基督教学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤原佐和子
2. 発表標題 ラテンアメリカにおけるイヴォネ・ジェバラのエコフェミニスト神学 Longing for Running Waterを中心に
3. 学会等名 日本基督教学会
4. 発表年 2017年



1. 発表者名 藤原佐和子
2. 発表標題 アジア・キリスト教協議会 (CCA) アジア宣教会議 (AMC) 報告
3. 学会等名 日本キリスト教協議会 (NCC) 信仰と職制委員会ほか (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藤原佐和子
2. 発表標題 平和の使者を育てる アジアにおけるエキュメニカル教育に向けて
3. 学会等名 ルーテル神学校第53回教職神学セミナー 『平和 現代世界への宣教の視点から 』 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Sawako Fujiwara
2. 発表標題 Changing Family Value and Culture in Japan: Problems Face by the Youth Today, ”
3. 学会等名 Asian Ecumenical Youth Assembly (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤原佐和子
2. 発表標題 非欧米諸国におけるエコフェミニスト神学 ラテンアメリカの事例
3. 学会等名 日本基督教学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 藤原佐和子
2. 発表標題 エキュメニカル運動との出会い アジアで女性キリスト者が「神学する」ことをめぐって
3. 学会等名 現代キリスト教セミナー（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 藤原佐和子
2. 発表標題 アジアの女性キリスト者たちと環境正義（eco-justice） エキュメニカル運動の視点から
3. 学会等名 日本宣教学会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考